

2018年1月26日

各位

会社名	石油資源開発株式会社
代表者名	代表取締役社長 岡田 秀一
コード番号	1662 (東証第一部)
問合先責任者	広報 IR 部長 平田 一成
電話番号	03-6268-7110

減損損失（連結）および関係会社株式評価損等（個別）の計上に関するお知らせ

石油資源開発株式会社（JAPEX、以下「当社」）は、2018（平成30）年3月期第3四半期（2017年10月1日～2017年12月31日）において、当社在外連結子会社のJAPEX Montney Ltd.（以下「JML社」）を通じて参画する、カナダ ブリティッシュ・コロンビア州におけるシェールガス開発・生産プロジェクト（以下「上流事業」）に係る、減損損失（連結）および関係会社株式評価損等（個別）を計上する見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 計上の概要

(1) 減損損失（連結）

上流事業で生産するシェールガスのLNG（液化天然ガス）化の検討を進めていた「Pacific NorthWest LNGプロジェクト」（以下「PNW事業」）の事業化取りやめ決定(*)を受け、PNW事業を前提としない上流事業として開発計画を見直し、JML社で現在計上している事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することとしました。

これにともない、2018年3月期第3四半期連結決算において、減損損失として750百万カナダドル（日本円約680億円(*)2)を、特別損失に計上する見込みとなりました。

(2) 関係会社株式評価損および海外投資等損失引当金繰入額（個別）

上記の減損損失の計上により、当社が保有する同社株式の実質価額が著しく下落したことなどにより、2018年3月期第3四半期個別決算において、関係会社株式評価損391億円および海外投資等損失引当金繰入額44億円を、特別損失に計上する見込みとなりました。

2. 業績に与える影響

上記の減損損失の計上に係る、2018年3月期第3四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純損益への影響額は、約340億円の損失となる見込みです。

また、関係会社株式評価損および海外投資等損失引当金繰入額については、連結決算においては消去されるため、当社連結業績に与える影響はありません。

なお、本件を含めた2018年3月期通期（2017年4月1日～2018年3月31日）の当社連結業績予想については現在精査中であり、判明次第お知らせいたします。

3. 今後の見通し

PNW 事業を前提としなくなったことから、JML 社の事業用資産の回収可能価額の算定の基礎となるシェールガス販売見込量を減らしたものの、鉱区に賦存するシェールガス資源の総量に減少はありません。

引き続き、上流事業として、シェールガスの効率的な開発および生産を進めるとともに、事業の価値と収益の最大化を追求していきます。また、当社および JML 社は、当社が保有する石油・天然ガス E&P (探鉱・開発・生産) の知見を活かし、上流事業の価値および収益の最大化に向けた取り組みへ、引き続き貢献してまいります。

以上

注)

*1 : 2017 年 7 月 25 日当社公表資料「カナダ ブリティッシュ・コロンビア州における LNG プロジェクトの取りやめについて」参照

*2 : 90.69 円/カナダドルを前提に算出

※本資料に記載の前提ならびに予想に係る数値は、現時点で入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の数値は、今後さまざまな要因により異なる可能性があります。